



概要などについて説明するJA職員

**園芸一千万円販売組織の拡大を目指す 現地園芸研修会**

JAや花巻市などで構成する花巻市農業振興対策本部園芸振興部会は8月23日、一億円販売園芸団地形成に向けた「いわて型野菜トップモデル産地創造事業」の導入と園芸一千万円販売組織の拡大を図るため、集落営農組織と法人向けの「現地園芸研修会」を花巻市で開きました。

関係機関や生産組合など約10人が参加し、ピーマンの「農の匠」である晴山文佳さんのほ場と石鳥谷園芸センターを見学しました。参加者たちは、JA職員からピーマン栽培の概要などの説明を受けたほか、晴山さんから具体的なピーマンの栽培方法や管理方法などを学び、理解を深めました。

JAでは、米以外の収益性の高い園芸品目の導入により農家所得の向上を図ることを目的とし、ピーマンの面積拡大を推進しています。



部員(左)と会話をしながら買い物を楽しむ地域住民

**新鮮野菜をどうぞ 女性部花巻支部家庭菜園グループ「青空市」**

女性部花巻支部の家庭菜園グループは8月10日、部員が栽培した新鮮野菜を販売する「青空市」を花巻支店(花巻市豊沢町)で開きました。

青空市は40年ほど前から始まり、年2回夏と秋に開いています。同日は、旬の野菜のほか、漬物や味噌の加工品、花などがズラリと並び、地域住民や支店職員などが訪れ、部員と野菜の調理法などの会話をしながら買い物を楽しみました。

グループの藤井梅子代表(72)は「水不足で生育が心配だったが販売できて良かった。野菜を待っている人たちがいるから、秋野菜も力を入れて頑張つて育てたい」と意欲をみせました。

**リンゴ販売25万ケース目指す 果樹部会リンゴ販売対策会議**

果樹部会は8月21日、平成30年度のリンゴ販売対策会議を北上市内のホテルで開きました。

関係機関や取引市場関係者など39人が出席し、生育状況や販売推進方針などについて意見交換をしました。今年度の生育状況は、おおむね平年並みの結実量が確保されており、いずれの品種も平年を上回る状況です。しかし、7月の高温と乾燥の影響で果実肥大が鈍化し、早生種にとっては大きなダメージとなりました。

佐藤力夫常務は「今年度販売目標の25万ケースを達成するために生産者の方々の出荷が大事になる」と力強く話しました。



生育状況などについて話すJA職員

**投打噛み合い、上根子上農家組合が優勝 農家組合男女混合ソフトボール大会**

JAは8月19日、石鳥谷ふれあい運動公園(花巻市石鳥谷町)で「第3回農家組合男女混合ソフトボール大会」を開きました。

各地区の代表12チームが参加し、3チームずつ4コートに分かれて予選リーグを行いました。午後からは、予選を勝ち抜いた4チームで決勝トーナメントを実施。豪快なホームランやピンチを守りきった守備など、ファインプレーで会場は盛り上がりました。熱戦の末、上根子上農家組合(湯口支店)が優勝しました。

ソフトボール大会は、組合員の健康増進や親睦を深めるため、来年も開催する予定です。



力いっぱいバットを振り、ボールを打つ選手

**産直あぜみちの会合同地区懇談会を開催 オリジナルコース料理を味わう**



「あぜみち」のオリジナルコース料理を味わう農家たち

産直あぜみちの会は8月24日、「産直あぜみちの会合同地区懇談会」を和食処きくすい(北上市柳原町)で開きました。

この企画は、生産者同士の交流と、生産者の農産物がさまざまな用途で使われ、おいしい料理になることに誇りと自信を持ってほしいと始めました。当日は35種類以上の農産物を使い、旬の野菜ゼリー寄せやブルーベリー鮭、野菜のタルトケーキなど計7品を味わいました。

佐藤安友会長は「生産者が豊かな心を持ち、お客さんがいつ来ても野菜がある産直を目指そう」と参加した会員に呼びかけました。

**来客数増加を目指す きたかみ産直スタンプラリー開催中**



「きたかみ産直スタンプラリー」をPRする「あぜみち」の職員

北上産地直売所「あぜみち」は、北上市内の産直が参加し、8月〜10月に行う「きたかみ産直スタンプラリー」の加盟店です。

参加店舗に設けている台紙に、各店舗のスタンプを8カ所集めてスタンプ欄をすべて埋めると、参加店舗で使える買い物券がもらえるほか、きたかみ牛や地元産の新米、リンゴなどが当たる抽選にも応募ができます。北上産地直売所「あぜみち」の牧野久美子所長は「このスタンプラリーをきっかけに新たなお客さんが増えてほしい」と期待を込めました。

スタンプラリーの実施期間は、10月21日までです。